



「浦和のさかえに 歴史をほこる」開校155周年 YEAR を迎えて

大いちょう

令和 7年 7月 1日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和7年度 No. 4

048 (829) 2737

私が〇〇になったとき

校長 永 山 誉

日本各地から梅雨明けの発表が聞かれるようになりました。関東地方も、例年よりも早い梅雨明けが予想されている中での7月のスタートです。本日から7月。令和7年度1学期もいよいよ1か月を切りました。令和7年度に入ってからのお子様の成長ぶりはいかがでしょうか。7月19日からは、39日間の長い夏休みに入ります。1学期の残りの1か月、子どもたちには、これまでの取組を振り返りながら、成長した点とこれからの課題を整理して、夏休みを迎えられるようにしていきたいと思います。また、暑い日が続きますので、熱中症対策を十分に講じながら、教育活動を展開してまいります。引き続き、保護者の皆様には、学校教育への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

ところで、皆様は次のような詩を御存じでしょうか。若い頃、先輩から紹介され、この詩を読んで身が引き締まる思いがしたことを今でも覚えています。作者不詳の詩と言われていますが、ここに紹介します。

『私が先生になったとき』

私が先生になったとき	自分が真実から目をそむけて	子どもたちに本当のことが語れるのか
私が先生になったとき	自分が未来から目をそむけて	子どもたちに明日のことが語れるのか
私が先生になったとき	自分が理想をもたないで	子どもたちに一体どんな夢が語れるのか
私が先生になったとき	自分に誇りをもたないで	子どもたちに胸を張れと言えるのか
私が先生になったとき	自分がスクラムの外にいて	子どもたちに仲良くしろと言えるのか
私が先生になったとき	自分がひとり手を汚さず腕を組んで	子どもたちにガンバレ、ガンバレと言えるのか
私が先生になったとき	自分の聞いから目をそむけて	子どもたちに勇気を出せと言えるのか

この詩を読まれてどのようなことを感じますでしょうか。「先生」の部分を「親」と読み替えて考えてみるのもよいかもしれません。子どもたちに関わる全ての方々の姿や行動は、子どもたちに大きな影響を与えると考えています。自分ができないことは、子どもたちもできないのであり、大人の姿を子どもたちよく見ています。まずは、自分はどうなのか、そんなことを問いながら、これからも子どもたちに接していきたいと、1学期の締めくくりにあたり考えました。

開校155周年記念運動会の開催方法について

本校では、令和2年度に新校舎が校庭の東側に建設され、校庭の狭さが運動会の開催にあたっての課題となっていました。令和2年度以降、コロナ禍も経て、本校の運動会については検討を重ね、ブロック学年での実施とし、児童委員会を活用して高学年が運動会を支える取組も取り入れてきた経緯があります。そのような形で実施する中、最大限子どもたちどうしが他の学年の取組も見られるようにすることや、保護者の方々が参観できる規模を考慮し、今年度から3学年での実施とすることとしました。3学年の組合せやプログラム構成等につきましては、現在検討中ですので、決まり次第お知らせいたします。学校行事の実施にあたりましては、今後も本来の目的や意義に立ち返りながら、今できることを考えながら、現状にあった方法を検討していきたいと考えています。